

3 未利用資源のきのこ培地基材への利用に関する試験(第3報)

予算区分：県単
担当科名：生物資源科

研究期間：平成12～14年度
担当者名：宗田 典大

．目 的

スギ間伐材や松くい虫被害材は、有効利用されず林地残材になっている。また、県内ではシイタケ原木は年間50万本以上植菌されているが、2～3年間収穫されたほだ木は廃ほだ木となり、ほだ場周辺に放置されたり燃料として焼却されている。本研究は、スギ、マツの林地残材や廃ほだ木を利用した、きのこ栽培について検討を行った。

．試験内容及び結果

(1)廃ほだ木を利用したマイタケ栽培試験

平成12年度に開始した廃ほだ木利用のマイタケ栽培試験について、平成14年度の発生量を調査した。マイタケの収穫量は、廃ほだ木(大)区で0.5kg、廃ほだ木(小)区で0.3kg、コナラ原木区では2.2kgであった。発生量を原木1m³当りで比較すると、廃ほだ木(大)区で10kg/m³、廃ほだ木(小)区で7kg/m³、コナラ原木区では41kg/m³であった。

平成12～14年の発生量の合計は原木1m³当りで、廃ほだ木(大)区は60kg/m³、廃ほだ木(小)区は31kg/m³およびコナラ原木区は119kg/m³であった。

(2)スギ間伐材を利用したクリタケ栽培試験

林業試験場内のスギ間伐材を利用し、クリタケ原木栽培の検討を行った。供試したクリタケ菌株は、平成11年に林業試験場内のスギ枯死木発生したクリタケより採取、分離した株(NS12)を使用した。種駒は12時間浸水したシイタケ用原駒を、100個当り1gの米ぬかを混合し121 で50分間滅菌、放冷後クリタケを接種、70日間培養し使用した。原木は、直径約20cmのスギを約50cm長に玉切りし、1本当り20箇所植菌した。植菌後、林業試験場内のスギ林内に伏せこみした。植菌から約半年後、ほだ木樹皮下および種駒周辺で菌糸の生長が確認されたが、当年におけるきのこの発生は確認されなかった。

．まとめ

廃ほだ木利用のマイタケ栽培は、コナラ原木を使用した場合と同様の作業工程を必要とするにもかかわらず、収穫量はコナラ原木区と比較して5割程度に留まった。

スギ間伐材を利用したクリタケ栽培は、菌回りおよびきのこの発生について今後も観察を継続する。